

モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座

公益財団法人 才能開発教育研究財団

日本モンテッソーリ教育総合研究所・教師養成センター

	1. 「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」 2		
	2. 講座概要 3		
	●スクーリングまでの流れ 4		
	●履修に関して 4		
	・履修のしくみ		
	・単位制—講義動画／スクーリング／レポート		
	・受講生マイページ		
	・受講通信		
	・卒業		
	・資格試験		
	・休学／退学／除籍		
	●2歳半～6歳コース 7		
	・履修年限／在籍年限		
	・履修科目一覧		
	・履修科目について（理論科目／実践科目）		
	●0歳～3歳コース 10		
	・履修年限／在籍年限		
	・履修科目一覧		
	・履修科目について（理論科目／実践科目）		
3.	組織について 12		
	・公益財団法人才能開発教育研究財団		
	・日本モンテッソーリ教育総合研究所		

「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」

日本モンテッソーリ教育綜合研究所は、1976年に日本で初めて「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」を設立しました。

モンテッソーリ教育は、マリア・モンテッソーリが科学的な視点から『子どもの家』の子どもたちをつぶさに観察・考察し、試行錯誤を繰り返しながら生み出した教育法です。モンテッソーリが着目したのは①子どもを観察する、②教育の主体は子どもである、という点でした。そこから導き出された基本的な考え方は、子どもは生まれながらに「自己教育力」を持ち、自然から与えられた設計図に基づいて、おのずから成長・発達する存在である、というものです。モンテッソーリは、大人（教師）にできることは「さまざまな経験が可能なようく子どもを取り巻く『環境』を整え、成長・発達できるように『自由』を保障することで、『すでに始まっている成長という仕事を助ける』ことだけ」と述べています。

当研究所はこのようなモンテッソーリの考え方と共に鳴・賛同し、学ぶ時と場所を選ばない「通信教育」という方法をいち早く取り入れることによって日本におけるモンテッソーリ教育の拡充と普及をめざしてきました。受講生は日本国内だけでなく、中国、アメリカ、ヨーロッパなど様々な国におよび、卒業生の数も 5,000 名を超えています。日本モンテッソーリー教育綜合研究所は、未来と平和を担う子どもたちのため、今後もモンテッソーリ教育を学ぶ方々を全力でサポートしていきます。



マリア・モンテッソーリの略歴

1870 年 8月31日、イタリア中部アンコーナ近郊に生まれる。	1913 年 初めてアメリカに渡り、講演旅行をする。
1871 年 [イタリア、国家統一完成]	1914 年 [第一次世界大戦勃発～1918]
1886 年 国立レオナルド・ダ・ビンチ工科高等学校入学。	1915 年 スペインのバルセロナに移住。
1890 年 ローマ大学入学（92 年、医学部へ進学）。	1922 年 [ムッソリーニが政権に就く]
1896 年 女性としてローマ大学最初の医学博士号を取得。	1936 年 オランダのラーレンに移住。 [スペイン内乱起こる～1939]
1897 年 ローマ大学医学部附属精神病院助手になる。	1937 年 「平和のための教育」を講演。
1901 年 ローマ大学で心理学を学ぶ。	1939 年 インド訪問。以後 7 年間滞在。 その間に『幼児の秘密』『吸収する心』などを著す。
1904 年 ローマ大学教師養成コースで教育人類学を講義。	[第二次世界大戦勃発～1945]
1907 年 「子どもの家」を開設。	1951 年 第 9 回国際モンテッソーリ大会で講演。
1909 年 第 1 回国際モンテッソーリ教師養成コース開催。 『「子どもの家」の幼児教育に適用された科学的の教育学の方法』（モンテッソーリ・メソッド）を出版。	1952 年 5 月 6 日、オランダで死去。

講座概要

自分のライフスタイルに合わせて学べる「通信教育」

本講座は、モンテッソーリ教育を学びたい方々に、柔軟で充実した学びの機会を提供します。テキストや動画を活用しながら自分のペースで学習を進めていけるため、仕事や家庭・プライベートとの両立も可能です。夏のスクーリングでは実践的な内容を集中して学びます。同じ目標を持つ仲間と出会い、意見交換や情報共有を行うことで、多角的な視点が得られるとともに学習へのモチベーションも高まります。レポート提出や動画視聴にはあらかじめ期限が設定されており、また、提出されたレポートには教師から丁寧なアドバイスがされるため、挫折することなく計画的に学習を進めることができます。

「モンテッソーリ教師資格」取得で活躍の場を広げる

本講座の卒業生は、日本モンテッソーリ教育総合研究所が認定する「モンテッソーリ教師資格」（民間資格）を取得することができる*ため、活躍の場が広がります。

*日本モンテッソーリ教育総合研究所が実施する「資格試験」を受験することが必要です。

「モンテッソーリ教育」を学ぶ2つのコース

本通信教育講座には年齢別に、2つのコースがあります。

2歳半～6歳コース

マリア・モンテッソーリが考案した教育法に基づいた2歳半～6歳児のコース

0歳～3歳コース

マリア・モンテッソーリの遺志を受け継いだ人々により開発された教育法に、最新の赤ちゃん学、脳科学の情報を加えた乳幼児コース



スクーリングのようす

●日本モンテッソーリ教育総合研究所が認定する 「モンテッソーリ教師」資格とは…

以下の基準を満たしていると判断された受験者に対し与えられます。

- ・モンテッソーリ教育の基礎理論の習得ができている
- ・モンテッソーリ教育における基本的な実践（提示）の習得ができている

スクーリングまでの流れ



テキスト

実践5科目のテキスト（2歳半～6歳コース）。詳細な説明とともにイラストを用いて、独習するにあたっても「提示」に関する理解をいっそう深める目的で作られています。

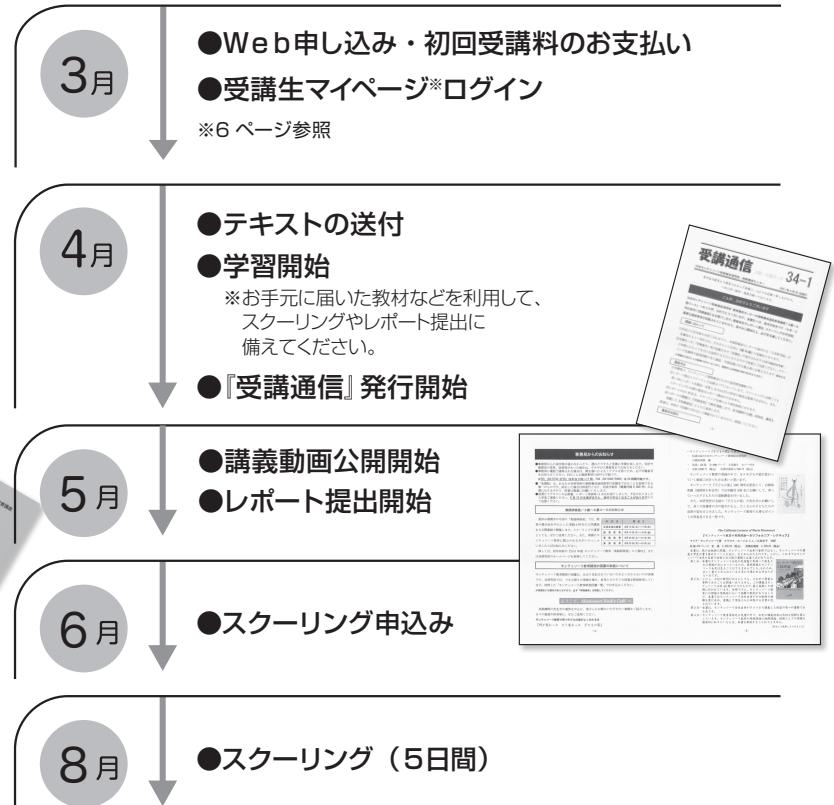
履修について

レポート

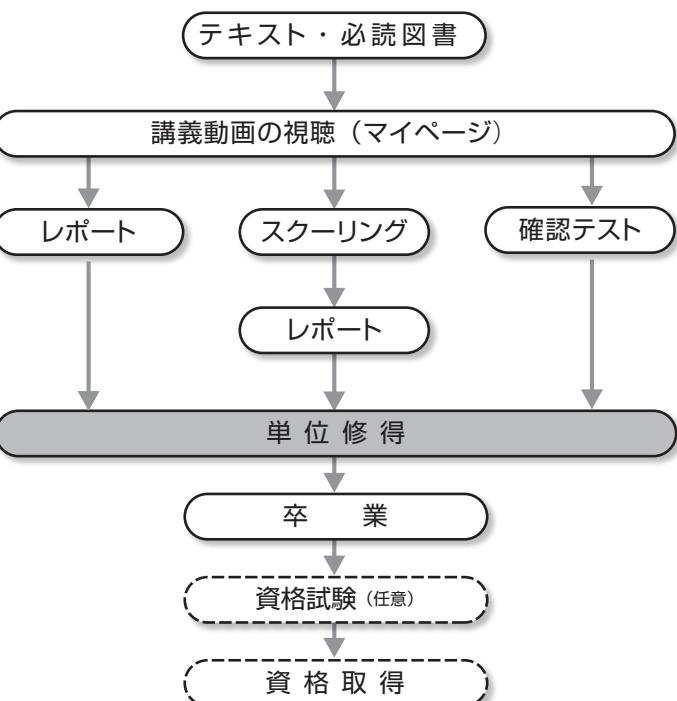
レポートは科目ごとに提出期限が定められています。

単位修得

単位修得するには、科目ごとに定められた学習をマイページ上で行う必要があります（期限あり）。

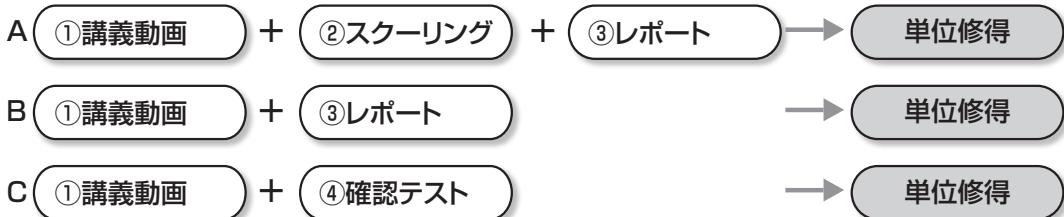


履修のしくみ



単位制

本講座では「単位制」をとっています。単位修得の条件となる項目には①講義動画 ②スクーリング ③レポート ④確認テストの4つがあり、基本的には以下A～Cの3つの組み合わせがあります。



※①～④は同一年度内に行われる必要があります。

講義動画

理論講義は基本的に動画で配信されます。「受講生マイページ」(6 ページ参照)にログインし、期限までに視聴します。実践科目(スクーリング出席が必要な科目)の導入講義については、公開期間に関わらず、スクーリング参加前に視聴することが必要です。

スクーリング

毎年8月上旬の5日間(朝9時頃から17時頃まで、1日4コマ～5コマ)に渡って行われます。実践科目に関して、それぞれの教具がどのような構造をもっているか、それがモンテッソーリの理論とどうつながっているかを意識して進められます。

※スクーリング期間中の託児所などは設置しておりません。



◀スクーリングの受講風景▶



レポート

テキストや講義動画、スクーリングでの講義内容などを参考にレポートを作成し、受講生マイページから期限までに提出します。提出されたレポートは担当教師により評価・採点され、60点以上を合格、それ未満を不合格とし、不合格の場合は再提出となります。期限までに再提出がない場合等は単位不認定となり、次年度以降、再履修が必要となります。

確認テスト

講義動画の内容に関する問題が出題されます(選択式)。受験回数の制限はありませんが、期限までに全問正解することが必要です。

■ 受講生マイページ

受講生マイページは受講生専用の Web サービスです。単位修得に必要な動画の視聴やレポートの作成・提出、確認テストなどは、このマイページ上で行います。また、月一回発行される『受講通信』をはじめ、事務局からの「お知らせ」もこちらに掲載されます。スクーリングの出欠状況やレポートの提出状況など、ご自身の受講状況も確認することができます。

■ 『受講通信』

『受講通信』にはレポートやスクーリングに関する連絡など、履修に関わる重要事項が掲載されます。毎月 25 日の発行後は必ず内容を確認することが必要です。

■ 卒業

在籍年限内にすべての単位を修得すると卒業となります。卒業生には、3月に行われる卒業式で卒業証書が授与されます。

■ 資格試験

本講座の卒業生は、日本モンテッソーリ教育総合研究所が年 1 回実施する「モンテッソーリ教師 資格試験」を受験することができます。合格者は日本モンテッソーリ教育総合研究所が認定する「モンテッソーリ教師資格*」（民間資格）を得ることができます。

※公的な保育士資格・幼稚園教諭免許などとは性格が異なります。

- 受験資格者：当研究所通信教育講座卒業生および卒業見込みの方。
- 試験内容：筆記試験と実技試験があり、それぞれに合格することが必要です。実技試験は個人面接の形をとり、口頭試問と教具提示の 2 種類の方法で行います。詳細は 11 月頃マイページにてご案内します。
- 試験時期：毎年3月下旬

2歳半～6歳 コース

モンテッソーリ教育の基本的な考え方をまとめると、以下のようになります。

- 子どもは「発達」を遂げるために生まれてくる
- 子どもには自分で発達を成し遂げていく「自己教育力」が存在する
- 自己教育力は具体的には「敏感期」として現れる
- 敏感期に見合った「環境」を整備する
- 環境と子どもが主体的に交わるよう 「提示」を充実する
- 子どもに「集中現象」が現れるように導く

乳幼児期（0歳～6歳）の発達は前期と後期に分けられます。2歳半～6歳コースの対象となる後期は「意識の芽生え」の段階にあります。前期の段階で「無意識の吸収精神」によって環境から吸収したさまざまな事柄を、意識をもって整理、秩序化する時期です。この時期には運動の敏感期、感覚の敏感期、言語の敏感期、数の敏感期、文化の敏感期等が現れます。そして、それぞれの敏感期に対応する環境として『日常生活の練習』『感覚教育』『言語教育』『算数教育』『文化教育』がモンテッソーリ教育の5分野として位置づけられています。

2歳半～6歳コースの講義は理論と実践の2本柱です。物的環境としての用具、教具類は0歳～3歳の子どもが対象とする物よりも圧倒的に数が多くなります。また、使い方を行ってみせる「提示」もこの段階の子どもの発達段階に合わせ、段階を踏みながら複雑で手順の多いものになっていきます。したがって、講義内容は理論講義よりも実践講義の比重が高くなります。また、『文化教育』の実践が体系的に紹介される点も当コースの特徴です。

履修年限／在籍年限

履修年限（卒業までの最短年数）	在籍年限（在籍可能な最長年数）
2年	4年

カリキュラムは2年間ですが、最長4年間在籍できます。

履修科目一覧（2歳半～6歳コース）

分野	1年次履修科目	2年次履修科目
理論科目 モンテッソーリ教育の理論 モンテッソーリ教育の土台としての理論	<ul style="list-style-type: none">・実践理論・マリア・モンテッソーリ その生涯と業績・モンテッソーリ教育概論 I・児童観・自由論・教育学	<ul style="list-style-type: none">・モンテッソーリ教育概論 II・教師論・心理学・医学・発達障害概論
実践科目 方法論	<ul style="list-style-type: none">・日常生活の練習・感覚教育・実践ノート	<ul style="list-style-type: none">・言語教育・算数教育・文化教育

* 2025年度の履修科目です

履修科目について

理論科目

本講座は「理論科目」と「実践科目」により構成され、モンテッソーリ教育を実践するうえで必要とされる「教育学」「心理学」「医学」「発達障害概論」等を理論科目として扱っています。これらの科目が目的とするところは、幼児教育を実践するうえで必要とされる幅広い視野を養い、学びの基盤となる土台づくりを行うことになります。また、「モンテッソーリ教育概論」では、モンテッソーリの考える生命観の視点から幼児教育を考え、社会性や道徳・平和へと理解を深めていきます。

実践科目

2歳半～6歳コースの「実践科目」では、以下の分野を学びます。

日常生活の練習（1年次履修）

『日常生活の練習』の目的は、運動の完成です。幼児は大人のすることを何でも真似したがります。その「模倣期」と「運動の敏感期」とを利用して、自分の身体を意志どおりにコントロールする能力を身につける場が『日常生活の練習』です。「子どもはできないのではなく、やり方を知らないのだ」という考え方方に立って、正確にやり方を伝えます。自分のことが自分でできるようになった子どもは、「自立」に向けて大きな一步を踏み出します。具体的には、歩く、はさみで切る、カップに水を注ぐ、ボタンをかける、室内を掃く、洗濯をするなど、実生活と密接に関連する多くの活動があります。

感覚教育（1年次履修）

人間は外界の情報を感覚器官によって収集します。3歳過ぎの子どもは、感覚器官がほぼ発達を遂げ、さまざまな感覚刺激に対して敏感です。小さな物を見つけたり、かすかな音を聞きつけたり、微妙な匂いや味を区別したりします。その「感覚の敏感期」を利用して、意識して感覚器官を使って練習するのが『感覚教育』です。練習によって感覚器官が洗練されれば、外界からより精確でバラエティに豊んだ情報を収集できるようになり、知性や情緒が発達します。

また、感覚教具には、「対にする」「段階づける」「分類する」という、三つの操作が位置づけられています。このことによって、まさに脳の前頭葉が働き始め、知性が芽生え始めた時期の子どもは「ものを観察する能力」と「ものを考える方法」とを身につけることになります。モンテッソーリ教育では、『感覚教育』は『言語・算数・文化教育』という知的教育分野の基礎となる大切な役割を担っています。

言語教育 (2年次履修)

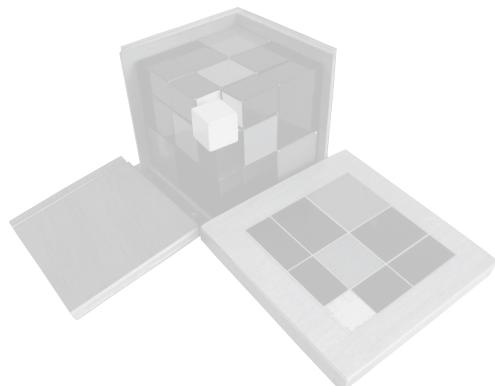
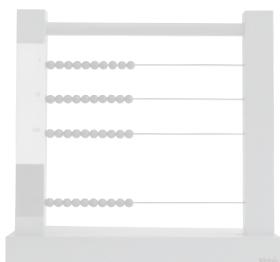
子どもは最初からことばを獲得して誕生してくるわけではありません。子どもは「言語の敏感期」の時期に自分の周囲で話されていることばを母語として獲得します。ことばの量や質は環境に左右されます。モンテッソーリ教育の『言語教育』は、子どものことばの発達段階に合わせてきめ細やかなステップを踏んで、語彙を豊かにすることから始まり、最終的には文法にまで至ります。文字を書くこともまた、『日常生活の練習』や『感覚教育』で養った手や腕をコントロールする力を利用しながら、身につくような工夫がされています。したがって子どもは、文字に興味をもった時期に知らず知らずのうちに文字を書いたり読めたりするようになります。

算数教育 (2年次履修)

車のナンバープレートの数字や物の大きさ、量に興味を示す「数の敏感期」が幼児期には表れます。そのときに数に関する教具の環境があれば、子どもは容易に数を吸収します。モンテッソーリ教育の算数教具はただ単に数を唱えるものではなく、数量が具体物で表され、手で扱えるようになっています。そしてそれらは、感覚教具からの継続として準備されています。既知から未知へ、子どもはスムーズに導かれます。四則演算でいえば、実際に 1000 個のビーズからなる重い立方体から、色と数字で数量を表す切手という半抽象の段階を経て、暗算という完全な抽象の段階へと無理なく至ります。

文化教育 (2年次履修)

『文化教育』は、「ことば」と「数」以外の子どもの興味を対象とした幅広い分野です。歴史、地理、地学、動・植物など、小学校の社会科、理科に相当する分野を扱います。子どもの知りたいという要求に応え、興味の種を可能な限り多く蒔くことを目的とします。ほかの4分野が統合された総合学習としても考えられます。



0歳～3歳 コース

0歳～3歳は長い一生の出発点であり、この後に続く何十年という人生の基盤となる時期です。そのうえこの時期は無意識、つまり記憶には残りません。しかし、この記憶に残らない時期が人生の中でもっとも吸収力の強い時期であり、その後何十年かけても達成できないようなさまざまな事柄を、いとも簡単に成し遂げていくことができる時期ともいえます。

この時期の発達の課題は「できるようになること」です。たとえば一点を注視できる、首が据わる、はいはいができる、歩けるようになる、しゃべることができる等です。この発達の課題は、あらかじめ時期と順番がプログラムされたもの、つまり設計図として子どもの中に内在します。私たち大人が教え込み、訓練して発達を遂げさせるのではなく、子ども自身ができるようになる力=「自己教育力」を環境に注ぎ込むことで、この発達の課題は達成されていきます。

この肉体・精神の両面における発達が健やかに成されていくために基盤となるのが、子どもにとっては私たち人間の社会に「適応」していくことです。「適応」は0歳～3歳コースのキーワードといってもよいでしょう。適応を可能にする条件として、私たち大人が「子どもを受容すること」が重要となり、その結果子どもには「基本的信頼感」、つまり人と結びつく力が築かれるのです。

0歳～3歳コースの講義は理論と実践の2本柱で構成され、講義内容は、子どもや子どもの発達に関する知識を伝える理論講義が多くなります。理論講義の背景に位置づけられるのは、モンテッソーリ教育の考え方と現代科学で証明された事実です。

履修年限／在籍年限

履修年限（卒業までの最短年数）	在籍年限（在籍可能な最長年数）
1年	3年

カリキュラムは1年間ですが、最長3年間在籍できます。

履修科目一覧（0歳～3歳コース）

分野	履修科目
理論科目 モンテッソーリ教育の理論 モンテッソーリ教育の土台としての理論	<ul style="list-style-type: none">実践理論マリア・モンテッソーリ その生涯と業績0歳から3歳の発達環境論・大人の役割音楽美術医学小児保健生命の維持3歳以降のモンテッソーリ教育
実践科目 方法論	<ul style="list-style-type: none">運動論（粗大・微細運動 / 日常生活の練習）言語教育感覚教育

*2025年度の履修科目です

履修科目について

理論科目

「理論科目」では、0歳から3歳の子どもの精神・肉体両面の発達に関する知識、また、この時期の子どもに関わる大人の役割などについて学びます。0歳から3歳のモンテッソーリ教育がそれ以降どのように展開していくのかについての「3歳以降のモンテッソーリ教育」の講義もあります。モンテッソーリの考え方だけでなく、現代科学で証明されてきた事実を基にした理論（「小児保健」、「医学」等）を学び、乳幼児教育の実践に必要な幅広い視野を養います。

実践科目

0歳～3歳コースの「実践科目」では、以下の分野を学びます。

粗大運動の活動

運動の獲得は、子どもの成長の方向である自立への一歩です。ここでいう「運動」とは、跳び箱や鉄棒などの体育的なものをさすのではなく、歩く、階段の昇り降り等の全身を用いた大きな動きのことをさします。すり這いから歩行までの運動の獲得を援助します。

微細運動の活動

ここでは主に、手、指を使った運動をさします。握る、落とす、たたくなどの動きを通して微細運動の獲得を促します。

日常生活の練習

粗大運動と微細運動が複合的に合わさった活動です。共同体の一員として日常の活動に参加されることにより、環境への適応を促していきます。着衣枠、観葉植物の世話などの活動が含まれます。

言語教育

ことばの獲得は、人間のDNAに組み込まれている本能です。子どもは「話すことばの敏感期」にしたがって、自分の周囲で話されている母語を獲得します。しかし、ことばの量や質は環境に左右されます。モンテッソーリ教育の『言語教育』では、子どものことばの発達段階に合わせてきめ細かなステップを用意し、豊かな語彙を養います。

感覚教育

子どもには、無意識に環境をまるごと吸収する精神が存在します。吸収する精神によってため込んださまざまな感覚的な印象は、感覚教具に触ることによって整理されていきます。「感覚の敏感期」を考慮し、発達段階や興味に応じた感覚教具に触ることにより、感覚の洗練を促します。また、感覚教具の操作方法は、子どもの知性の覚醒を促します。

組織について

公益財団法人 才能開発教育研究財団

財団法人 才能開発教育研究財団は、2011年4月1日付で、公益財団法人 才能開発教育研究財団へと移行しました。当財団の活動すべてが、わが国の教育のさらなる進歩、発展に寄与する社会貢献活動であるとの自覚と自信をもち、財団の事業の一つである「日本モンテッソーリ教育綜合研究所」においては、「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」や附属『子どもの家』等を通じてモンテッソーリ教育の普及や実践研究等の活動を行っています。

今後も、当財団は新しい幼児教育法の開発や指導者の育成をめざして一層努力し、全国の保育現場に広く情報を提供することを責務と考え、さらなる拡充を図っていきます。

日本モンテッソーリ教育綜合研究所

日本モンテッソーリ教育綜合研究所は、公益財団法人 才能開発教育研究財団に属する組織です。1976年「モンテッソーリ教育の考え方とその方法を柱にして研究を進め、その成果を広く日本の教育界に広めていく」ことを目的として発足しました。現在も、「よりよい教育創造」をめざし活動を続けています。モンテッソーリ教育の普及、子どもたちの健全な育成を目的とし、主に次のような事業を行っています。

- 教師養成事業 …モンテッソーリ教育 国際資格取得コース（AMS認定コース）
モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座
- 実践教務事業 …附属『子どもの家』
- 実践研修事業 …モンテッソーリ教育「集中講座」「実技講習会」「上級算数」
- その他の取り組み …入門講座（e-ラーニング）、モンテッソーリ関連図書翻訳・出版
海外のモンテッソーリ教育視察旅行企画、講演活動 ほか



財団本部ビル（東京都大田区）

公益財団法人 才能開発教育研究財団
日本モンテッソーリ教育綜合研究所
教師養成センター

〒146-0083 東京都大田区千鳥3-25-5 千鳥町ビル
TEL.03-5741-2270 / FAX 03-5482-5999
<https://www.sainou.or.jp/>